

「学力を身に付けるために新聞を 1 日に 1 時間以上読み込もう」

——新聞による学力の大幅向上を考える——

開倫塾

塾長 林 明夫

学力を身に付ける上で最も大切なことの一つは、新聞をじっくりと読む習慣をできるだけ早い時期に身に付けることだと思います。

なぜなら、日本では新聞は毎朝、場合によっては夕方も家庭に届けられ、その中には世界の出来事、東アジアの出来事、日本の出来事、自分の住んでいる県や市町村の出来事などがぎっしりと記載されているからです。

文字や数字、写真、イラストなどをふんだんに使い、読む人にできるだけわかりやすい形で伝える工夫がなされているのが、日本の新聞です。新聞は紙の上に印刷されていますので、ゆっくりと読むこともできるし、素早く読むこともできます。また、大事なものは切り取ったり、コピーをして保存したりすることもでき、とても便利です。

新聞を毎日 1 時間以上熱心に読み続けると、世の中の出来事がわかるだけでなく、ものごとを幅広くじっくりと考える習慣を身に付けることができます。

また、新聞を毎日読むことにより大量の文章を深く考えながら読む習慣が身に付きますので、学校での勉強に大いに役立ちます。その理由は次の通りです。教科書や参考書は文字で書かれています。新聞を毎日読むことにより養われた大量の文字を読む力をもってすれば、少しだけじっくりと読んだり調べたりするだけで、教科書や参考書に書いてあることが「理解」できる、つまり「うん、なるほど」とわかる場合がぐんと増えます。そして、学校で先生の授業を受ける前の予習をすることも苦ではなくなります。次の授業の内容を前もって読んだり調べたりして、よくわからないことをはっきりさせておくのが予習です。そのような意味での予習をする力は、新聞を毎日 1 時間以上深く深く読むことにより身に付けることができます。

さらに、新聞を毎日 1 時間以上読み続けると、世の中のことがいろいろわかってきて問題意識が高まりますので、何のために勉強するのが少しずつわかってきます。各科目を勉強する意味もわかってきますので、勉強することが面白くもなります。先生に質問したくなり、友達と議論をする場合も、

なぜ自分はこのように考えるのか、その理由を述べられるようになります。また、先生や友達がなぜそのように考えるのか、その理由もわかってきますので、世の中にはたくさんの人がいて、自分もその中の一人として生きていることが面白いなと感じることが増えます。

それから、どの新聞にも投書欄があります。同年代の同性だけではなく異性の人の投書を読むと、男女によって感じ方が異なることがわかります。また、年下・年上など年齢によっても、職業やおかれている境遇によっても、感じ方や考え方が随分と違うのだなあということもわかります。

一面の一番下のあたりにあるコラムや2～3面にある社説を毎日丹念に読むと、世界や日本で起きていることについての新聞社としての考え方を知ることができます。

家庭のページや教育のページは読めば必ず役に立ちますし、政治のページや経済のページ、国際のページは世の中の動きを知る上で興味が尽きません。社会面を見ると、人間としてやってよいことと悪いことを知ることができます。どうしたら事件や事故を未然に防げるかを考えるよいきっかけにもなります。

以上

(2003年1月7日記)